



第九十二号 平成三十年十月十五日(月)発行

作左の会七年間の思い出

前会長 兵藤紀之

平成二十四年に五代目会長に

「一筆啓上 火の用心 お仙泣

選出され、前会長市川崇氏の代

かすな 馬肥やせ」の文面にあ

行の一年を含め、計七年間「作

る「思いやりの心」を大切にし

左の会」に携わって参りました。

た町興し活動をしようとしたこ

その間、会員始め多くの方々の

とから始まります。

ご協力・ご支援をいただきまし

在任中の作左の会の活動は、

たことをこの紙面をお借りして

会員が増え、活動内容が充実し

感謝申し上げます。

たこともあり、地域の方々の理

「作左の会」は今から十八年

解が深まってきたこともあり、

前に総代会が中心となり、宮地

定着したと言えます。

町出身の徳川家康家臣の本多作

心に残った活動を取り上げま

左衛門重次を担ぎ出し、作左衛

すと、一つ目は「作左ゆかりの

門が戦場から妻に宛てた手紙

地視察旅行」で福井県丸岡町に

行けたこと。二つ目はふるさと

読本「ふるさと六ツ美西部写真

史」を五年間の準備期間を経て、

平成二十七年三月に発刊できた

こと。三つ目は今年十五回目と

なる俳句・短歌コンクールであ

る「ふるさと賞」で、地元の校

長先生から「とても良い事業だ

から児童の作品づくりでは協力

するので継続してほしい」との

お言葉を頂いたこと。四つ目は

広報誌「作左通信」で、年六回

程度の発刊により作左の会主催

行事報告と共に本多作左衛門の

活躍や逸話等を載せ「作左の会」

の理解活動に努め、平成二十八

年度に八十号に達したのを機に

合本集「作左通信から見た活動

の歩み」を発刊できたこと。こ

のような活動が出来たのも会員

の皆様及び各町総代様の一方な
らぬご協力があったることと感
謝申し上げます。

「思いやり、絆を大切にする
こころでの町おこし」が作左の
会の理念でもあります。それが
家族、学校、地域にも浸透し素
晴らしい地域になっていくこと
を願うものです。今後も皆様の
ご協力をお願いします。

また、十一年後の二〇二九年
は作左生誕五百年を迎えます。
それに向けこの地域が更に活躍
することを望みます。



作左の会 検索